

市庁舎が落成

市民待望の市庁舎の建設は、いよいよ総仕上げに入り、この十日竣工。二十四日には落成の運びとなりました。

現在の庁舎は、第二次大戦中に建築された旧県地方事務所で、老朽がはげしく、そのうえ年ごとに行政需要が多くなるばかりで、現庁舎では手狭となり、教育委員会水道局などが分散するという結果になっていました。

そこで、人口六万六千五百人を想定、県下第二の都市にふさわしく、総工費四億四千余万円（陸橋壁画、備品などに四千二百九十六万円を追加）で、鉄筋コンクリート造り、地下一階、地上五階、延べ面積六二〇〇平方メートルの近代的な



12月

待望の新庁舎

庁舎の建設にとりかかっていたもので、

地下は機械室、書庫、一階は主に市民に密接な関係のある税務、市民、会計、収入役室、福祉事務所と市民ホール。市民ホールの正面には、一階から三階までを吹き抜いて市を象徴する「長尾鷲」の

まだ寒さまでには間があると思っ
ているうちに、朝晩の冷えこみがつよ
くなり、とうとう12月になりました。
「月日は百代の過客にして、行きか
ふ年もまた旅人なり（奥の細道）」と
いった芭蕉の気持ちがわかるような気
がします。なにか「あつという間の年
の暮れ」といった感じです。

年の瀬

12月といっても、このごろは落語や
講談に出てくるような緊迫感は少な
くなりました。

商店街では、ジングルベルを鳴らし
て購買欲をあおり立てていますが、若
い人たちはむしろ年末から年始にかけ
ての連休をどう過ごそうかといった計
画や、ご家庭でもボーナスの胸算用や
お買物の計画をお立てになっているこ
とでしょう。

しかし、何といっても12月は1年の
しめくりと、新しい年を迎える準備
をふくめて、なんとなくいそがしい月
です。とくに家事を切りもりする主婦
にとって、こんなに心せわしい月はあ
りません。

その何となくいそがしく心せわし
さにふり回されないために、まず自分
の家庭に合った家事計画表を作ってみ
ましょう。

日が短く、予定の仕事がなかなか思
うようにはかどらないこのごろです。
日が短くなると気が短くなるとい
われます。家事計画は、まず大きな買
物、掃除、せんたくなど、それぞれ上
中、下旬にふりあてます。

お買物はあまり押しつまってからで
は品薄になりますが、上旬までは、ま
だそれほどいそがしくなりませんから
ゆっくり選べます。

焦点

二十四日に落成

来春四日から仕事始め

大壁画がかざられます。これは県
展審査員である田岡耕作氏の作
によるもので、モザイクスタイル
張り五色仕上げの豪華なもの。二
階は農林園芸、商工水産、建設の
各課と農業委員会、社会福祉協議

会、そして陸橋の渡り口には食堂
売店、喫茶コーナーが設けられま
す。三階は公害環境課、同和対策
室、教育委員会、四階は市長室、
助役室、市長公室、総務課、財政
課、監査室、開発公社、選挙管理
委員会と大会議室、五階は議会議
係で議場、正、副議長室、議員控

え室、各常任委員会室、議会議務
局など。屋上は展望ロビーや空気を
調整室、エレベーター機械室。水
道局と青少年補導センターは、現
庁舎の会議室が使われます。また
現庁舎は会議室を除き、全部とり

つています。
そして、二十五日ごろから年内
まで市庁舎を市民に公開、二十八
日までに書類などを運びこみ、来
春四日の御用始めから新庁舎での
仕事始めとなります。

こわし、市民とお客さんの駐車場
とされます。
二十四日の落成式には、市内外
から三百人のお客さんを招待。モ
チ投げ、はし傘大会や市民賞の表
彰、二十五年勤続職員表彰などが
行なわれ、市内各戸には手下げ袋
がくばられ、落成を祝うことにな

新庁舎は、一階入り口に庁舎案
内ガールを配置。市長、助役や各
課長の在室。不在は電光掲示板で
すぐわかるように。戸籍、住民票
印鑑証明、国保、税務、福祉、取
入、支出など、市民の利用の多い
事務は、全て一階ですませること
のできる配置になっています。

行政機構を改善するため、プロ
ジェクトチームで研究しています
が「窓口事務の一本化をはかり、
将来は一戸に一袋式（袋の中に家
族全部の関係書類を入れる）で、
市民が庁内を走りまわらなくても
一カ所で手続きが終えられるよう
にしたい。そして名実ともに市民
の殿堂として、親しまれ、愛され
る庁舎となるようにつとめたい」と
話しています。